



日中ダムの渇水状況(H30.8.23)

6月下旬以降の高温・少雨の影響により、7月下旬には貯水率が30%を下回るダムが見られ、各自自治体では渇水対策本部の設置、ダムにおいては放流量の調整、土地改良区では輪番取水や排水の反復利用など、農業用水の確保に向けた措置が講じられました。8月上旬に一部ダムで放流停止が見込まれてからは、羽鳥ダム(天栄村)で8月20日、日中ダム(須賀川市)で8月21日、藤沼ダム(喜多方市)で8月24日、新宮川ダム(会津美里町)で8月25日にかんがい用水の放流を停止しました。

【特集】平成30年渇水を振り返って

農空間

第76号

発行所 福島県農林水産部 農村計画課



一方、浜通り地方においては、台風の影響などにより貯水率の上昇が見られ、干ばつによる被害は少ない結果となりました。会津地方では、渇水の影響が著しく、日中ダムにおいては、消費井戸を活用した用水供給や放流量の調整を行うなど徹底した節水に取り組みましたが、水道水を確保する必要があるため、利水者間で調整を行った結果、8月21日にかんがい用水の放流を停止しました。

貝田地区は、宮城県との県境である国見町北部に位置し、阿津賀志山の流域を利用する溪流掛りを利用する貝田集落、山根集落の水田と果樹地帯となっています。

県北農林事務所

県内からの便り

次代へ繋げる！農業経営を目指して

比較急傾斜のある未整備田で、93戸の所有地が散在しているため、高性能の機械利用が難しく、面的なまとまりをもった農用地の流動化も進まない状態でしたが、平成28年度に農村地域復興再生基盤総合整備事業(農地整備事業)に着工し、平成32年度の完了を目指して、現在、基盤整備工事を盛んに実施中です。



新宮川ダムの渇水状況(H30.8.24)

農作物への被害としては、県北を中心に県中、県南及び会津の4地域において約3億5千万円の被害が発生しました。そのうち、水稲については、立ち枯れ、出穂遅延・停止、不稔等により県中及び会津地域で約4千万円の被害となり、被害総額の約1割を占めました。



小さい未整備田を営農効率の良い大区画へ工事中

貝田地区で整備する29haの農地は、当初6名の個人の担い手で55%集積する計画となっていました。本事業を契機に、6名の農業者が出資し、次の世代へつなげる農事組合法人『コネクトファーム貝田』を設立、地区の将来についての話し合いを重ねたところ、農事組合法人と農業者1名を中心経営体として位置づけることにより、85%以上の集積が見込まれることとなりました。



日本を代表する「斜め堰」です！

小川江筋は今から約380年前、「澤村勘兵衛勝為」により農地約1,200町歩を潤すべく開削されました。これにより、安定的な収穫が確保されたことに加え、新田開発も進み、平藩の増産に大いに寄与したとされています。特徴的な施設は「斜め堰」と呼ばれる頭首工です。多段式木工沈床の造りで、これほど規模が大きく歴史のある「斜め堰」は国内でも珍しく、自然と調和した美しい堰として、石造りの趣のある源門とともに地域の方々にも親しまれています。



小川江筋土地改良区

「じやんがら念仏踊りもきつかけはこの人物!」

いわざ

地域に根ざした 水土里ネット

磐城小川江筋土地改良区は、これらの26kmに及ぶ基幹水路を管理する他、市の所有する排水機場5箇所の管理も担い、更には「ほ場整備」2地区の計画も進めており、水(用・排)・耕一体となった地域社会の形成を支えています。昨年9月には、水土里を育む普及促進事業を活用して、小学生とその保護者を対象とした、源門(斜め堰)から取水する水門の見学会と水路の生きもの調査を行いました。子供たちには見学したイメージを絵にしてみよう、そのデザインを施設PRの看板として使っています。



源門を見学して看板を作成しました

これから地域に根ざした水土里ネットとして、先人達によって築かれた施設と農地を次世代に引き継ぐよう役職員一同努力してまいります。

小川江筋土地改良区

福耕支援隊情報



相双農林事務所「農地計画課」

では、市町村の災害復旧事業の審査・指導業務を担当する福耕支援隊として、滋賀県から山本さん(1年間)、愛媛県から藤長さん(4~7月)沼田さん(8月)の3名に応援を頂いています。

しかし、愛媛県は平成30年7月の西日本豪雨によって甚大な被害を受け、自県の災害復旧に対応するため9月以降の支援隊員を召還することとなりました。これまで福島県をご支援頂いたことに感謝するとともに、全国的に様々な災害が頻発する中、福島県の復興を一刻も早く進めなければならぬと改めて強く思うところです。

さて、愛媛県の沼田さんには後を託された滋賀県の山本さんには、新地町・浪江町・大熊町・飯館村の農地や農業用施設(水道路路や揚水機、ため池など)の災害復旧事業を進めて頂いています。

新地町では、平成31年1月に24箇所の復旧が完成し、町内全ての農地復旧が完了しました。また、浪江町では平成31年3月に70haの農地復旧が、飯館村でも2箇所のため池復旧が完了します。

春には、荒涼とした被災地が青々とした水田に戻る姿を皆さんと共に愛でたいと思います。



山本主任主査

新地町の農地復旧状況を確認中

農村整備第二課では長野県の横山さん、新潟県の富井さんのお二人が福耕支援隊として日々多忙な業務に取り組んでいただいております。

横山さんは主に排水機場とため池の災害復旧を担当しておりますが、各施設とも短期間で内容を熟知し、速やかに問題点の解決に努めているお姿は若手職員の間で憧れの的になっております。

富井さんは、昨年度から引き続き2年目の支援隊であり、主に現場整備事業の計画策定業務を担当いただいております。長期間故郷を離れて、様々な思いを持つ地元農家の方々と相手に計画の調整・取り纏めを意欲的に取り組まれており、頭が下がります。

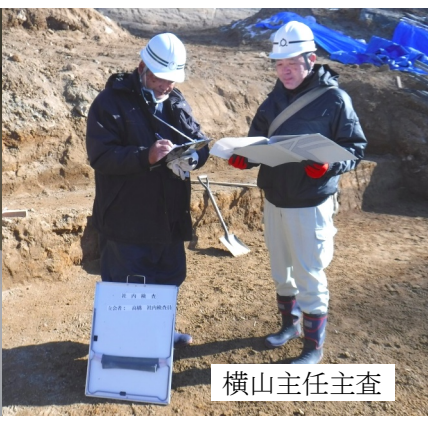
今年度も残りわずかですが、お二人のサポートを受けながら課一丸となって復旧・復興に励んでいきたいと思っております。

【農村整備部】



富井主査

ほ場整備計画検討の熱い議論



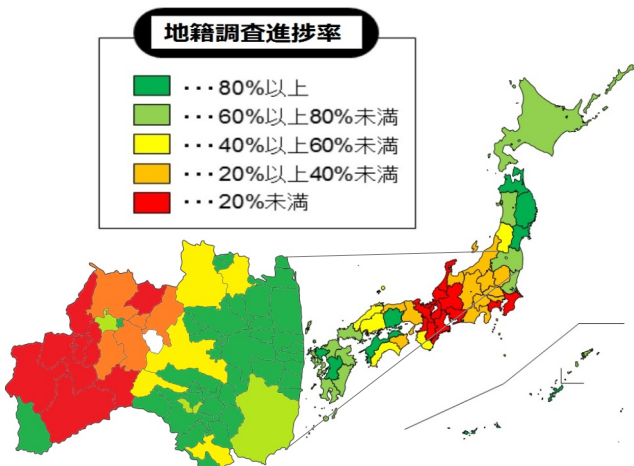
横山主任主査

ため池工事の現場確認

地籍調査事業について

「日本の土地の2割は所有者不明で、その面積は九州全土をも超えた。」そんなニュースがあります。それを解消する方法の1つが地籍調査事業です。今回は、農空間の紙面を借りて紹介させていただきます。

福島県の地籍調査進捗率は約61%と全国平均の約52%を上回っています。調査がされていない一部の土地は明治初期の地租改正事業等の成果(字限図等)が、法務局備え付け地図(不動産登記法第14条)とされています。



近年の高齢化・過疎化・人口減少により、特に山村部では所有者不明地の増加に加え、所有者自身が土地境界を把握していないことにより、筆界未定となる土地が増えているのが現状です。そこで測量技術の進展を受け、新手法「リモートセンシング技術を用いた山村部の地籍調査マニュアル」が昨年度で策定されました。これは、現地に精通している高齢者が急峻な山に登らなくとも、集会所等で一堂に会しリモセンで撮った高精度の空中写真やレーザー測量成果を用いて、立会いや測量作業の効率化を図る地籍調査手法です。

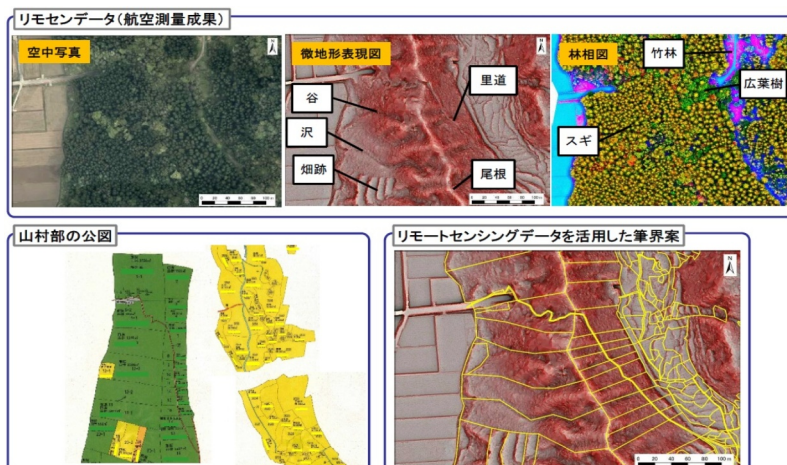
おらほの山の境界はどこ?

これまで現地で行っていた立会いを、微細な地形や植生等が把握可能なリモセンデータを活用し、作成した筆界案を用いて集会所等で境界確認を行い、土地所有者等の同意を得ることで立会いに必要な期間や人員等を大幅に軽減できます。

また、これまで現地で行っていた測量作業を、空中写真等から解析したリモセンデータを用いて机上で行うことが可能となり、現地測量コストを大幅に削減し、従来よりも広範囲の測量が可能となります。

県土の約70%を占め豊かな環境を生み出す森林を県民共有の財産として守り、限りある土地を有効活用して次世代に引き継ぐためにも、山村部の地籍調査事業は非常に重要です。そのためにも、県民の皆さん一人一人に立会いや境界確認等に協力を頂くことで、一歩ずつ調査が進み、防災や県土保全のために花を咲かせることができるよう、今後も地籍調査推進に向け日々努力を重ねていきます。

【農村計画課】



新規採用職員の紹介

農業土木職員の一員です!



① 県北農林事務所

農村整備課

伊藤 遼平

② 喜多方市

地域環境科学部

生産環境工学科

③ 地元である福島を離れて学生生活を送るうちに、それまで意識したことが無かった地元というものに対して何かを返せる職に就きたいと思い、本職を志望しました。



④ 農業を取り巻く問題は数多くあります。食料自給率の低下、農業従事者の減少、農業への新規参入のハードルの高さなど、これら以外にも様々な問題があり、その多くは解決の目処が立っていません。農業の問題は食の問題であり、人間は食をなくては生きていけませんので、農業に関する問題をより深刻に考えなくてはなりません。自分の子供たちなど、次世代のために、農業や食の環境をよりよいものとするために、間接的でも携わることによって問題を解決する一因となればと思います。

現在、基幹水利施設ストックマネジメント事業の半田沼地区、白沢地区を担当しております。普段目にするのではない裏側の部分から携わることができ、やりがいを感じつつ、責任の重さを感じながら日々過ごしております。

ご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、よろしくお願いたします。

① 相双農林事務所

農村整備第一課

伊東 次郎

② 二本松市



④ 震災からの復旧・復興そして発展を目指す福島の「力」に微力ながらなりたいと思ったことが志望動機です。

相双地区での勤務は初めてで農地の広さに驚きました。業務内容は前の事務所では、ため池工事・水路工事が多かったですが現在は、南相馬市原町区のパイプライン工事・ほ場整備工事を担当しています。

地域の方々・工事関係者そして農林事務所の皆さんと一緒に、相双地域の発展のために頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

① 所属・氏名

② 出身地

③ 学生時代の専攻

④ 志望動機・担当業務・抱負

① 県北農林事務所

農村整備課

三浦 伸治

② 二本松市

③ 機械工学科

④ 農業を取り巻く問題は数多くあります。食料自給率の低下、農業従事者の減少、農業への新規参入のハードルの高さなど、これら以外にも様々な問題があり、その多くは解決の目処が立っていません。農業の問題は食の問題であり、人間は食をなくては生きていけませんので、農業に関する問題をより深刻に考えなくてはなりません。自分の子供たちなど、次世代のために、農業や食の環境をよりよいものとするために、間接的でも携わることによって問題を解決する一因となればと思います。



編集後記

今回の76号で、自身の担当である地籍調査事業について寄稿する事ができ嬉しかったです。そうそう、69号からの編集担当は最後です。今迄お世話になりました。大須賀

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。